

令和4年度授業改善推進プラン

清瀬市立 清明小学校 第2学年

	授業における課題や学力調査資料から見えた課題	授業改善のための具体策	成果と課題(年度末)
国語	<ul style="list-style-type: none"> 「知識・技能」では、漢字の正答率が6年は東京都の平均と比較して27%程度下まっている。2年の漢字を書く力に関しては、漢字小テストの平均点が8割程度となっているが、児童間の差が大きく苦手な児童への配慮が必要である。 「思考・判断・表現」では、5年は全国の正答率と比べて、20%以上低い。2年も自分の考えを書く活動になると、手が止まってしまうたり、短文で詳しく書けなかったりする児童が約3割いる。 	<ul style="list-style-type: none"> 新出漢字の学習の際に、しっかりとした字形で書けるよう指導する。2週間に1回程度小テストを行い、テスト前には全体で復習をしてから実施をし、定着を図る。 促音、拗音、長音、助詞が含まれる文章の視写や、お手本の文をもとに書く活動を取り入れる。感想文など、文章を書く活動をより丁寧に指導すると共に、書いた文章を自分で読み返す指導を行う。 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> 東京ベーシックドリル診断シートの結果から、整数のしくみ、時計の問題の正答率が5割程度と低い。 文章題を正確に読み取り、意味を理解することが難しい児童が4割程度いる。式の意味を理解することが苦手な児童が多い。 6年の学力テストの結果から、図形に関する問題の正答率が低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習や宿題プリント、ミライシードを活用し、一人一人の学習状況を見取る。授業内やパワーアップタイムで個別指導を行ったり、くり返し指導を行ったりすることで基礎・基本の計算を定着させる。 実生活における事象との関連を図った活動を取り入れる。 簡単な数字に置き換えたり、具体物や図に表したりして、問題文の内容を具体的にイメージさせる。 正方形・長方形・直角三角形について特徴をしっかりと身に付けさせる。 	
生活	<ul style="list-style-type: none"> 1学期中に行ったアンケート調査の結果から、課題について考えることが好きと答えた児童が6割、課題について調べたことを発表することが好きと答えた児童が5割いる。このことから、設定した課題を探究する力と、調べて分かったことをまとめる力を身に付けることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎時間の授業で課題について考える力を身に付けさせるために、付箋を使った少人数グループでの話し合い活動、授業後の振り返りの時間の設定する。 発表する活動では、小グループでの発表や、まとめの形式を複数用意することで、自分がやりやすいものを選んでまとめることができるようにする。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> リズムに合わせて歌を歌ったり、鍵盤ハーモニカを演奏することが苦手な児童が約3割いる。 鍵盤ハーモニカの運指が身に付いていない児童が2割程度いる。 学力調査の結果から、話すこと聞くことについて課題が見られた。音楽の授業でも聴き取ったことや感じ取ったことを言葉で表すことが苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎時間の授業で拍手リレーやリズム遊びを取り入れることでリズム感をつかませる。 鍵盤ハーモニカの演奏の練習の際に、苦手な児童には、個別に支援する。本時の目標を、曲すべてをひけるようになるのではなく、パートごとに区切ることで達成感を味わわせる。 聴き取ったことや感じ取ったことを言葉で表す活動をより丁寧にを行う。(音楽のもとを音楽に関連させて) 	
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 制作に意欲的な児童が多い反面、自分の表現したいことを上手く表現できない児童が3割程度いることが作品やワークシートからも分かる。 用具の活用に自信をもてない児童が4割ほどいる。 学力調査の結果から、話すこと聞くことについて課題が見られた。図工の授業でも、作品作りや鑑賞活動において、自分の考えを伝える力に課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 色々な方法で試すことや、表し方を選択させたりしすることで、児童の思いが作品につながれるように、状況に応じた指導を行う。 指導計画に応じ、用具の使い方を段階的に指導し、確実に基礎的スキルを身に付けさせ、表現の幅を広げていく。 作品作りや鑑賞活動において、伝え合う活動を意図的・計画的に行っていく。 	
体育	<ul style="list-style-type: none"> 運動遊びの種類によって、活動に参加しなかったり、挑戦しようとしなかったりする児童が1割程度いる。 基本的な体の動かし方に不慣れな児童が3割程度いる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「やってみたい」と思えるような場の工夫をする。教師や友達の見本を見て、どんな風にすればいいのか個別に確認し、意欲をもたせる。 体づくり運動や体ほぐし運動等で、様々な動きを取り入れ、走・跳など基本的な動きを身に付けさせていく。 週に1回中体育の時にコーディネーショントレーニングを取り入れ、体の動かし方を身に付けさせる。 	
道徳	<ul style="list-style-type: none"> 資料から学ぶ道徳的価値に対する気付きはあるが、意見の交換から、改めて自身の思いを深めることに課題が見られる。 終末において、自分事として考える際、ワークシート等に未記入の児童が2割程度いる。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達の意見をしっかりと聞くこと、友達の意見と自分の考えとの相違点を考え、一度その考えを吟味するなどの時間をしっかりととっていく。 その時間に扱う価値項目と、終末の発問・説話等が合致しているかを改めて考えながら授業を行っていく。 	

※ 枠の大きさは適宜調整して、1枚に収まるように作成してください。